

人文学部フランス語学科

学位（教育）プログラム名：フランス語圏言語文化学

本プログラムでは、共通教育科目で広い視野を身につけながら、専門科目を通じて国際性と学術性を高める。なお、「フランス語圏コース」と「ヨーロッパ特別コース」に分かれて異なる科目を受講する場合があるが、核となる修得内容は共通している。「ヨーロッパ特別コース」で異なるのは、ドイツ語学科開講科目の一部を履修し、ドイツ語およびドイツ文化を副専攻的に学ぶことができる点である。

初習外国語であるフランス語の四技能は、1・2年次の第1外国語科目「フランス語 I」「フランス語 II」および必修・選択必修の専門教育科目「フランス語基礎演習」「フランス語基礎会話」ならびに「フランス語圏文化基礎論」「フランス語基礎講読」（フランス語圏コース）「ヨーロッパ文化基礎論」（ヨーロッパ特別コース）によって段階的・効率的に習得する。3・4年次には、複数の講読科目と「フランス語作文」「フランス語会話」（フランス語圏コース）「コミュニケーション理論と実践」「プレゼンテーション理論と実践」（ヨーロッパ特別コース）によって、「読む」「書く」「聞く」「話す」能力をスキルアップする。その際、様々な科目におけるアクティブ・ラーニングを通じて、主体的な学びの力を高め、またペアワークやグループワークを経験することにより、積極性や社会性、協調性を獲得する。

専門科目では、フランス語とフランス文化に関するさまざまな学術分野についての知識を得るとともに、担当教員の指導のもとで自ら研究を進める。1年次必修の導入教育にあたる「フランス学入門」「日本語リテラシー」「ヨーロッパ学入門」、2年次の「フランス文学史」「ヨーロッパ学 ICT I」「クロスカルチュラル・リテラシー」で、研究の基礎となる、情報の収集・把握・処理・分析の方法、考えをまとめ発信する能力を身につける。3・4年次には地域文化・言語文化・表象文化にまたがる特講科目と選択科目・関連教育科目により学術諸分野の概要や個別的側面、求められる研究手法を学び、言語や文化について幅広い知識を得る。必修科目の「演習 I」「演習 II」と選択科目の「卒業論文」「卒業研究」は、フランス語能力の涵養とフランス語圏の言語・文化に関わる学術研究という本プログラムの二つの柱の統合的・発展的領域をになう場と位置づけられる。演習では、10名前後の少人数教育のもと、フランス語を学びかつ用いながら、情報を収集し、吟味・分析し、自分の考えを構築し、それを発表する。意欲のある者は、各自の研究をさらに発展させ、卒業論文・卒業研究としてまとめることができる。

【共通教育】

共通教育のCPに関しては別に定める。

共通教育に関するCPをもって学位（教育）プログラムCPを構成する。